

多文化共生の地域づくりにおける担い手育成の実践
 — 「日本語サポーター入門講座」と日本語教室をつなぐ取り組み—

竹内雪乃

鶴見国際交流ラウンジ 地域日本語教育プランナー

1. 課題の背景

筆者が地域日本語教育プランナーとして活動している鶴見国際交流ラウンジは、鶴見区役所からの委託を受け、(公益財団法人)横浜市国際交流協会が運営する施設である。多言語による情報提供や生活相談、多文化共生に関する講座・イベントの実施、外国につながる子どもの学習支援、日本語学習支援、ボランティア育成などを主な活動としている。本報告では、「多文化共生の地域づくりに役立つ日本語サポーター入門講座」(以下、「日本語サポーター入門講座」)を中心とした本年度の実践を振り返る。

本講座は、「地域日本語教室に限定されない、多文化共生の地域づくりの担い手を増やす」ことを目的として企画された。一方で、日本語教室を運営するボランティア団体からは、日本語学習希望者の増加や人材不足を背景に、「教室ですぐに活動できる即戦力となる人材の育成」を求める声が強く寄せられていた。

多文化共生の地域づくりの担い手育成という講座の目的と、日本語教室からの要望との間には、考え方や期待の違いがある。両者の間に立ち、どのように仲介していくかが、本実践で設定した課題である。

2. 実践の内容

実施 日程	①「日本語サポーター入門講座」 受講者に向けて	①と②をつなぐ取り組み	②地域日本語教室で活動する支援者に向けて
2025年 9月	講座(全9回)開始		各日本語教室の見学・ヒアリング実施※3
10月			日本語教室責任者会議において「日本語サポーター入門講座」の報告および「日本語学習支援者 ブラッシュアップ研修」の内容についての話し合い
11月	・講座終了 ・講座後アンケート実施		
12月	・受講者の要望により、情報交換会および受講者に対し、講座の感想などについてヒアリングを実施 ※1	「日本語サポーター入門講座」受講生のうち希望する者ならびにすでに日本語教室で活動している日本語学習支援者に向けた追加講座(「日本語の特徴・いろいろな教材をみてみよう」)実施 ※2	
2026年 1月		「日本語サポーター入門講座」第3回を担当した講師による「ブラッシュアップ講座1」実施 ※4	

3. 実践の評価

講座後に実施した情報交換会^{※1}のヒアリングの結果から、多くの参加者は、講座受講前には「多文化共生は外国人住民を支援すること」「何かをしてあげる側になること」と捉えていたことがわかった。しかし、講座を通じて、共生とは誰かが一方的に支える構図ではなく「相互の関係」の上に成り立つものだという理解へと変化していた。また、防災や地域活動の事例を通して、「町内会や防災訓練には外国人住民がいない。外国人住民と炊き出しなどいっしょにやってみたいと思った。運営側に外国人が入るとよいと思った。」など、外国人住民が支援される側に限らず、運営側の一員としての役割を果たし得ることへの気づきも共有された。本講座は募集時に「日本語の教え方を教える講座ではありません」と明記して実施した。その点に共感して参加した受講者の一人が、現在は中心メンバーとして、受講者主体のプロジェクトを立ち上げている。これらの点から、本講座は、多文化共生の地域づくりに関心を持つ人と、地域での実践とをつなぐ入口としての役割を果たしたと評価できる。

4. 課題解決に向けて

本実践で設定した課題は、多文化共生の地域づくりの担い手育成を目指す講座と、日本語教室からの要望との間に立ち、両者をどのように仲介していくかである。

受講者の中から、「日本語の教え方をもっと知りたかった」「実際に日本語を教えるとなるとこの講座を受けても、具体的には動けない」といった声も聞かれた。日本語教室での具体的な活動につながるという点では、本講座単体では十分といえなかった。そこで、「日本語サポーター入門講座」と日本語教室とをつなぐため、三つの取り組みを行った。第一に、日本語の特徴や教材に焦点を当てた追加講座^{※2}を実施した。企画当初は、「日本語サポーター入門講座」受講者のうち希望者のみを対象とする予定であったが、館長および担当講師と相談し、すでに日本語教室で活動している日本語学習支援者にも参加の機会を広げた。講座は、日本語の教え方に関する基礎的な知識や考え方を学ぶ場であると同時に、受講生と現場で活動する支援者をつなぐ交流の場とした。第二に、日本語教室の見学・ヒアリングを実施し^{※3}、各団体が大切にしていることと、本講座の内容との重なりを探った。これにより、講座への一定の理解を得ることができた一方、立場や目的の違いを調整しながら仲介する難しさも実感した。第三に、「日本語サポーター入門講座」と日本語学習支援者とをつなぐため、「日本語サポーター入門講座」を担当した講師に「ブラッシュアップ講座」^{※4}の担当を依頼した。「日本語サポーター入門講座」第3回と同じ内容の講座を、すでに日本語教室で活動している日本語学習支援者を主な対象とし、実施することにした。

5. 地域日本語教育プランナーとして果たした役割、大切にしたい視点、今後の展望

本実践において、地域日本語教育プランナーは、「多文化共生の地域づくりの担い手育成」を目指す講座と「教室ですぐに活動できる即戦力となる人材の育成」を求める日本語教室現場との間に立ち、両者を仲介する役割を担った。また、支援する側／される側、教える側／学ぶ側という固定的な関係に立つのではなく、館長・講座担当講師・受講者・日本語学習支援者と共に考え、共に学ぶ姿勢を大切にできた。今後は、多文化共生の地域づくりに向けて、学び合い、行動するコミュニティの形成を目指したい。そのために、互いの違いを認め合い、尊重し合う関係性を育みながら、仲介者として人と活動、人と場をゆるやかにつないでいきたい。